

スペイン王国上院議長及びモロッコ王国参議院議長の招待による両国公式訪問
並びに各国の政治経済事情等視察参議院議長一行報告書

団 長	参議院議長	伊達 忠一	
	参議院議員	吉田 博美	
	同	小川 敏夫	
	同	魚住裕一郎	
	同	井上 哲士	
	同	儀間 光男	
	同 行	国際部長	鈴木 千明
		議長秘書	内田 衡純
		参事	東 岳大
		同	西槇 亮
	警護官	山田 文彦	
	同	山本 敏夫	

一、はじめに

伊達参議院議長一行は、平成二十九年一月八日から十五日まで、スペイン王国ガルシア＝エスクデロ上院議長及びモロッコ王国ベンシャマシュ参議院議長の招待により、両国を公式訪問するとともに、アラブ首長国連邦ドバイを訪問した。

ガルシア＝エスクデロ・スペイン上院議長は、平成二十五年に参議院の招待で我が国を公式訪問しており、今回は両国間の議会間交流を一層発展させるためスペインを訪問したもので、参議院議長の公式訪問としては初のものである。

モロッコは、ジブラルタル海峡を挟みスペインと隣接しており、歴史的にも経済的にもスペインとの結び付きが強い。ビアディラ前議長が参議院の招待で平成二十六年に我が国を訪問しており、参議院議長として初のモロッコ公式訪問を行い、議会間交流の拡大を図った。

ドバイはアラブ首長国連邦にあって商都であるとともに、今やペルシャ湾岸だけでなく中東最大の貿易・商業ハブとしてその地位を確立し、世界の注目を集めている。一行は、こうした現状を把握すべく同地を訪問し、ドバイ日本商工会議所役員等との意見交換等を行った。

二、日程

議長一行の日程は以下のとおりである。

一月八日（日）

東京発

フランクフルト経由

マドリード着

一月九日（月）

スペイン電力会社イバルドローラ社再生可能エネルギー・オペレーションセンター（トレド）視察

トレド市内視察

在留邦人との意見交換

一月十日（火）

ガルシア＝エスクデロ・スペイン上院議長表敬

上院院内視察

上院議長主催昼食会

パストール下院議長表敬

下院院内視察

一月十一日（水）

マドリード発

カサブランカ着

ハッサン二世モスク視察

カサブランカ発

ラバト着

一月十二日（木）

シェッラー遺跡視察

故モハメッド五世国王及び故ハッサン二世国王への献花式

エル・アンサリ・モロッコ参議院副議長表敬

参議院本会議場視察

在留邦人との意見交換

メディナ（旧市街）視察

エル・アンサリ副議長主催晚餐会

一月十三日（金）

カサブランカ発

一月十四日（土）

ドバイ着

ブルジュ・ハリファ視察

ドバイモール視察

ドバイ日本商工会議所役員等との意見交換

オールド・ドバイ（ドバイ博物館、運河、織物市場）視察

一月十五日（日）

ドバイ発

東京着

三、会談等の概要

(一) スペイン王国

一行は、マドリード・バラハス空港到着時にガルシア＝エスクデロ上院議長の出迎えを受けた。

翌日、首都から約七十キロメートル離れた古都トレドに赴き、同国最大手の電力会社であるイベルドロラ社の再生可能エネルギー・オペレーションセンターを視察した。スペインは再生可能エネルギー先進国であり、再生可能エネルギー産業は同国の持続可能な発展を目指す経済政策の根幹をなしている。風力発電で世界一位である同社のオペレーションセンターでは、二十四時間体制で同国中の約二百の風力発電所及び約五十の小水力発電所の運用状況をリモートコントロールしている。担当者からはリモートコントロールの結果、各施設から送られてくる情報を診断し、遮断やメンテナンスの実施等適切な対処が可能となり、この結果、稼働率が上がった。一方で、無駄な稼働を減らすことで安定供給にも貢献できており、新エネルギーへの信頼を得ることにつながっている。このほか、発電に関する情報をデータベース化し、本社のみならずスペインの電力公社と共有しており、国全体の電力管理の一助としている等の説明があった。

ガルシア＝エスクデロ上院議長との会談では、同議長から、四年前に参議院の招待で貴国を訪問したが、その際は貴国から大変な厚遇を受けたこと、特に、天皇陛下にお会いできたことは大変光栄である旨感謝の意が表された。引き続き、同議長は、当時は両国交流四百周年の時期であり、皇太子殿下のスペイン御訪問、ポサダ元下院議長一行の訪日、安倍総理のスペイン訪問等両国関係強化にとって良い年であった旨述べた。また、同議長は、二〇一三年に予算上の理由からスペイン上下両院で各国との友好議員連盟をなくした経緯があり、来年、日本スペイン外交関係樹立百五十周年を迎えるこの機会に、日本との議員連盟を復活させたい旨発言した。伊達議長からは、まず、上院議長再任へのお祝いの言葉の後、日本とスペインは四百年を超える長い交流の歴史があり、さらに来年は外交関係樹立百五十周年を迎えるところ、両国の友好関係がより一層深まる契機となることを期待する旨述べるとともに、二国間の議会交流は非常に活発であるが、両国関係の更なる発展のため国民を代表する議会間・議員間の交流がより一層進むことを希望する旨の発言があった。引き続き、ガルシア＝エスクデロ議長は、昨年延期になったフェリペ国王陛下の御訪日が早期に実現されることを願っている旨述べ、伊達議長は、フェリペ国王陛下の御訪日が延期されたことは大変残念であり、できるだけ早い時期に御訪日が実現されるよう期待している旨述べた。また、伊達議長は、我が国は近年観光政策に力を入れて取り組んでおり、人口の二倍近くの数字である七千万人もの観光客をひきつけている貴国からは是非御意見を頂戴したい旨述べ、これを受け、ガルシア＝エスクデロ議長から、二〇一六年には約七千五百万人がスペインを訪問したとの速報を指摘しつつ、去年は日本から約五十万人の観光客がスペインを訪れている一方、スペインから貴国への観光客数は約十万人であるので、今後はより多くのスペイン人に訪日してもらいたい旨の発言

があった。

上院議長主催昼食会（上院から、サンス第一副議長、レルマ第二副議長、アスナル第一理事、ペドロサ第二理事、イパラギーレ第三理事、ラッフォ第四理事が同席）では、両国が共有する民主主義や人権等の価値、治安や安全保障上の懸念が高まる状況下での国際的な対話の必要性、友好議員連盟を通じた両国の議会間交流の活性化等が話題となった。

パストール下院議長表敬（プレンデス第一副議長、ナバロ第二副議長、ロメロ第三副議長、エリソ第四副議長が同席）においては、同議長から、両国の関係は近年目覚ましい発展を遂げ、特に、観光面では目を見張るものがあるところ、下院として日本の国会、特に、衆議院との協力関係を強化したい旨の発言があった。引き続き、下院議長は、人権、安全保障、高齢化社会への対応等両国には共通の取組があり、お互いに意見及び経験を交換することは有意義である旨の発言があった。伊達議長からは、来年は日本スペイン外交関係樹立百五十周年であり両国の友好関係がより一層深まることを期待するとともに、議会間交流においては、上院だけでなく下院においてもポサダ元議長が衆議院招待で訪日する等非常に良好な関係にあることをうれしく思う旨の発言があった。下院議長からは、両国とも世界的に最も長寿な国になっているところ、議員交流をより具体化し、共通テーマとして高齢化社会への対応について意見交換を行う必要がある旨述べた。また、下院議長は、スペインは日本とEUの関係の重要性を認識しており、日EU間対話においては、スペインもEUの一員として積極的に対応していきたい旨述べるとともに、外交関係樹立百五十周年である明年を一つの契機として議会間交流を深め、両国共通の社会問題に取り組まねばならない旨述べた。これに対し、伊達議長からは、外科医出身の下院議長は保健・消費大臣を務められるなど厚生・保健分野の専門家と伺っているところ、少子高齢社会下における医療費等の諸問題を外科医としてより一層改善していただきたい旨述べた。

その他の視察先として、一行は、世界遺産に登録されたトレドにある大聖堂等を視察した。トレドは十六世紀にマドリードに遷都が行われるまで、首都として政治・宗教・学問等の中心として栄えた都市である。同聖堂は十三世紀に再建造されたもので現在もスペインカトリックの総本山として重きをなしているとの説明があった。

（二）モロッコ王国

まず、カサブランカ国際空港では、急遽海外出張することとなったベンシャマシュ参議院議長に代わり、一行を接遇することとなったエル・アンサリ副議長の出迎えを受けた。

エル・アンサリ副議長表敬（ラルビ・マルシ議員、アフメッド・トゥイジ議員、モハメッド・アダール議員同席）においては、同副議長から、本日はモロッコ参議院議長が不在ではあるが皆様を大歓迎したい旨の挨拶の後、六十年前に始まっ

た両国関係は、モハメッド五世国王及びハッサン二世国王の指導の下発展してきたが、二〇〇五年のモハメッド六世国王の訪日で関係は更に強化された旨発言があった。引き続き、同副議長は、現在約四十五社の日本企業が我が国に進出し日本のODAとともにモロッコ経済発展に寄与してきたことを指摘した上で、モハメッド六世国王はアフリカ諸国との関係強化、特に、移民・難民問題に取り組んでおり、経済協力の分野で日本、モロッコ、その他のアフリカ諸国間の三国間協力が進んでいる旨述べた。さらに同副議長は、平成二十六年にはモロッコ参議院前議長が貴院招待で訪日し、両国関係強化に大いに貢献した（エル・アンサリ副議長は訪日招待に同行した）が、今回伊達議長にお越しいただき大変うれしく思う旨指摘した上で、議会間関係が強化されることはひいては両国関係の強化につながるどころ、この機会に例えば日本モロッコ議会フォーラムを設立し、政治、経済等の共通課題を話し合っはどうかとの旨提案し、伊達議長は、エル・アンサリ副議長がカサブランカ空港だけでなくラバトでの滞在ホテルにおいてもお出迎えをいただいたことに感謝の意を表した上で、昨年日本とモロッコは外交関係樹立六十周年の節目を迎えたところ、貴国の独立以来、皇室及び王室を始め、議会間・政府間、また経済・文化の幅広い分野にわたり活発な交流が行われている旨指摘し、今般、ベンシャマシュ議長の招待により我々が貴国訪問の機会を得たことは両国のきずなを更に強固にするものであり、御礼申し上げる旨述べた。引き続き、我が国はこれまで貴国に対し我が国の技術を活用し、社会開発や水資源分野等の生活基盤整備への支援を行ってきたところ、政府開発援助等に関する特別委員会を設置し、経済協力に関心を示してきた本院としても、貴国が持続的かつバランスの取れた経済成長を実現するため引き続き協力していきたい旨言及するとともに、議会フォーラムについては早速相談させていただきたい旨発言した。これを受け、エル・アンサリ副議長は、モロッコとしても日本のODAは特に貧困との闘いに貢献しており、その重要性を強く認識している旨述べた。また、モロッコは民主化への移行に取り組んでおり、特に人権の擁護を進めている旨述べた。

エル・アンサリ副議長主催晩餐会（ラルビ・マルシ議員、アフメッド・トゥイジ議員、アブデスサラム・レバー議員同席）においては、議会間協力の推進、両国における医療保健の課題等が話題となった。

視察先として、一行は、北アフリカ最大規模を誇るハッサン二世モスク（カサブランカ）、ローマ時代の邸宅跡が残るシェッター遺跡（ラバト）等を視察した。

（三）アラブ首長国連邦ドバイ

アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国の一つであるドバイは、二十世紀に入り歴代の首長が自由貿易政策をとったことから、周辺地域の商人はドバイにその拠点を移すようになっていた。特に、先々代のラーシド首長はその卓越した先見性により、石油に依存しない国造りを目指し、当初寒村であった海岸に建設さ

れた人工港とそれに付随して一九八五年に発足した経済特区は、中東の一大物流拠点としてドバイ経済の原動力となり、ドバイの自律的發展を促した。

今や、ドバイは我が国にとって中東での一大拠点となっており、在留邦人は二千八百人を数え、中東アフリカで最大の日本人社会を築いている。

ドバイ日本商工会議所役員等との意見交換においては、ドバイ及び中東各国における教育の現状と勤労意欲、我が国の農産物・食品等一次産品の中東への輸出状況とハラール認証、アラブ首長国連邦における医療保健状況、中東から見た我が国の経済状況等が話題となった。

視察先としては、発展前の産業を見るために、まず、ドバイ博物館においてその歴史を振り返り、引き続き織物市場（スーク）、運河（クリーク）等を訪れた。併せて二〇〇〇年代以降の富めるドバイの象徴として、高さ八百二十八メートル、百六十階建ての超高層ビル（世界で最も高い人工建築物）であるブルジュ・ハリファ（ブルジュはアラビア語でタワーの意味）、世界最大のショッピングモールであるドバイモールを視察し、ドバイの世界一に対するこだわりを理解することに努めた。

四、おわりに

今般の参議院議長として初となるスペイン及びモロッコ両国の公式訪問は、議会間交流の一層の進展に寄与するものであり、両国議会からは大変な歓迎を受けるとともに、各懇談においては、二国間の友好協力関係発展に向けて議員間・議会間交流を更に促進することが提案された。国際情勢が複雑化・不安定化する中で、国民を代表する議員同士による対話はますます重要となっており、本院においても、引き続き議会間交流の発展に努めてまいりたい。

また、今回の日程では、ドバイにおけるドバイ日本商工会議所役員等との意見交換を始め、各国において計二十六名の在留邦人と懇談を行い、各国の経済・社会事情や現地で活動する上での課題や苦勞など、現場ならではの視点から意見を聴取し、認識を新たにすることができた。

各国訪問に際しては、スペイン上院及びモロッコ参議院の議会関係者、並びに神山武在フランクフルト総領事、水上正史在スペイン大使、黒川恒男在モロッコ大使及び道上尚史在ドバイ総領事を始め、在外公館員等の多くの方々から多大なる御支援・御協力を得た。お世話になった皆様に対し、この場をお借りして心より厚く御礼申し上げたい。